

国際交流新聞

グローバル社会コース

第3号

2023.12.15

聖心女子大学
国際交流学科
グローバル社会コース
広報委員

はじめに

十月二十八日、二十九日に日本で初めて“Model EU” (MEU)、模擬EUが行われました。模擬EUの本番には本学国際交流学科から二名の学生が参加しました。グローバル社会コース二年生の林薫さんは、本番での活躍、準備段階での活動が評価されMEU賞を受賞しました。模擬EUとは何か、林さんへのインタビューを踏まえてご紹介します。

模擬EUとは

模擬EUとはEU加盟国二十七カ国の代表、EU機関の各代表の役割を各参加者が担い、特定の議題について全会一致を目指して交渉に臨む、EUの閣僚理事会の政策決定のシミュレーションです。今回は気候変動をめぐる議題に取り組みました。林さんは、議長国であるスペインを担当し、十月の本番に向けて、六月から何度も会議を重ねて準備をし、スペインの知識を得るだけでなく、議長国としての立ち回り方やマネジメントを学びました。

林さんへインタビュー

○準備期間に何をしましたか？

スペインを理解するために模擬EUの教授より日大の細田晴子先生を紹介していただき、夏休み期間中に日大へお伺いさせていただきました。その際には、スペインが議長国としてどのような方向性を目指しているのか、どのように立ち回っていくのかを教えてくださいました。今回の議題に関する助言をいただきました。また、私は模擬EUの参加者と事務局、先生とのハブとしての役割を担っていたため、その後の流れについての相談を行い、欧州委員会とも草案の修正のためにミーティングを行いました。本番に向けて、参加者の中で情報が追いつかず困っている人を考慮し、本番の一週間前には毎日三十分程度のミーティング時間を設け、質問への回答、各国の立場の確認をしていました。議長国の立場としてスペインの姿勢を知るだけでなく、他の加盟国についての理解を深めるため、スペイン以外の大使館にお話を伺う際には積極的に参加しました。

○本番では何をしましたか？

当日のタイムスケジュールを作成したほか、議事進行の台本を作成し、事前のリハーサルを通して当日の流れを事前に確認したうえで臨みました。議事進行では、加盟国が平等に発言できるように気をつけたほか、模擬EUを見に来てくださった人にも話し合いの内容を理解することができるよう、適度に議論を整理する時間を設けました。冒頭のステートメントでは、もう一人のスペイン担当者がステートメント文章とスライドを作ってくれたため、それらの資料をもとにゆっくりはきはきと話すことが出来ました。

○模擬EU賞を受賞し、ヨーロッパへの研修旅行が予定されていますが、現地で行いたいことはありますか？

現地の学生や本場で働いている方々との交流の機会から、直接の声を聴き、彼らの考え方をよく知りたいです。

最後に

筆者は、林さんへの取材を通して、気候変動のような地球規模課題に関して、模擬EUに参加し、問題意識を持ち、周りの人と協力しながら問題解決に進む姿勢は、社会に出た時に役立つスキルであり、欠かせないものだと考えました。学びを分かち合う仲間の積極的に活動する姿を知り、私も大で得た学びを活かし、何か行動を起こしたいと思いました。

改めて、MEU賞の受賞おめでとうございます。

編集

協力…林薫

編集…河内ひめ菜

(グローバル社会コース二年)